

## うまくいかないルーツ探し

### 【 子供が資料集めを始める年齢になると既に記録が廃棄されている 】

自分が委託された経緯について情報集めを始めるようになる時期には 子供はたいてい 20 歳から 30 歳以上の年齢になっています。その年齢になって自分の記録について照会するようになりませんが児童相談所に問い合わせても既に 20 年以上が経過しています。児童相談所での情報の保管期間は 5 年です。5 年以上経過してしまうと記録は自動的に廃棄されます。

特別養子縁組に至った経緯について審議した裁判記録についても同様です。家庭裁判所の記録の保存期間は 5 年です。詳細な裁判記録は 5 年以上経過すると廃棄されています。わずかに数行の判決文だけが残っているだけです。

特別養子縁組を斡旋した民間団体も 20 年以上が経過してしまうと 事業者が死去したり廃業して情報が残っていなかったりします。当時を知る職員さんも 20 年以上経過すると退職してしまい誰も話せる人がいなくなってしまうのです。

子供が生まれた医療機関に問い合わせをしても診療録の保管期間は 5 年です。20 年以上経過するとカルテ（診療録）は廃棄されてしまい残っていません。あるいは医療機関そのものが閉院して残っていないことがあります。

### 【 保管期間内に申請しても資料は一部しか入手できない 】

これらのことを踏まえて委託されて 5 年以内に養親さんが保護された児童相談所に子供の代理人として子供の委託された経緯について情報公開請求しても子供に関する部分だけが開示され生母に関する部分は黒塗り（マスキング）されて知ることができません。

家庭裁判所に 5 年以内に裁判記録の開示を求めても『子供が知るには過酷すぎる』という理由で情報公開されません。

医療機関に出産してから 5 年以内に診療録の開示請求をしても生母さんの個人情報ですので第 3 者である養親さんには個人情報保護を理由に開示されません。

このようにたとえ養育者である養親さんが子供の代理人として情報の保管期間内に資料請求しても情報を一部しか入手することができない仕組みになっています。情報が廃棄されない保管期限内に資料請求しても結局すべての情報を入手することができないのです。

### 【 全く手掛かりがない 】

遺棄児童の場合そもそも親についての手掛かりが全くありません。戸籍謄本を取り寄せても親の氏名の欄に保護してくれた院長や施設長や市長の名前が記載されていることがあります。出生届に記載された住所を調べてみても子供が保護された病院や児童相談所の住所だったりすることがあります。遺棄された子供の場合にはそれ以上辿ることができません。

そこでこの場合には保護された施設の記録を可能な限り収集し遺棄された当時の様子を可能な限り伝えるようにします。あるいは直接保護された乳児院を訪問し当時の職員さんがいれば面会するようにします。また保護された医療機関を訪問し当時のスタッフが残っていれば話が聞けるようにします。

たとえコインロッカーや駅であっても 毛布にくるまれていた お守りが一緒に入っていたと  
いうだけで子供には救いになります。『 寒くないように毛布に包んでくれた 』『 僕のことを  
気遣ってお守りをもらいにお宮に参ってくれた 』

### 【 生母の死去 】

子供が生母と面会するよう行動を起こすのは 20 代～30 代になってからです。そのころ生母は既  
に 40～60 歳になっています。たとえ母親の居場所が分かっても母親が病死したり死去して  
いる場合があります。このような場合 生母を知る親族（祖父母 生母の兄弟）を探して連絡をと  
るようになります。遺族が養子縁組した後の生活について話をしてくれたり 生母の写真や 最後の  
話をしてくれることがあります。

### 【 ルーツ探のゴールは自由に創作できる 】

ルーツ探しのゴールはさまざまに設定することができます。知れるだけでもいいというゴール設  
定もあります。知ることはできなかつたけれども行動を起こすことができたというゴール設定。誰  
かと一緒に行動できたというゴールもあります。

名前すらわからないこともあります。そもそも情報がまったく欠落していることもあります。そ  
んな場合 無理に親を知ることをゴールとしなくてもいいのではないのでしょうか。プロセスをゴール  
とする。そんなゴールもあってもいいのではないのでしょうか。

### 【 コラム 親の名前を付けよう 】

ルーツ探しをしたけれど結局両親は誰だか分らなかつた。子供をみるとしょぼくれていた。そこ  
で一計を案じ両親の名前を付けてみることにした。『 名前がないとじっくりこないから一緒に名  
前をつけようよ～ 』 一緒に両親の名前をつけることにした。

自分で親の名前をつける。子供の目がきらっとした。自分で想像した親。こんな親だったらいい  
な～という名前を親にしてもいい。自分の名前の 1 字をとって親にするのもいい。けれどもきつと  
こんな名前だよと直感でつけてしまった。『 昭和の名前やね～ 』と思った。でもこれは自分が  
つけた親の名前。自分がつけた自分だけの親の名前。けれどもこれは子供にとって親という物語を  
作るプロセスの始まりだった。

### 【 コラム 親を作ろう 】

ルーツ探しをしても結局 誰が親かわからなかつたり あるいは名前はわかってても会えなかつ  
たり 死去していたり行方不明になっていることがあります。そんなとき子供にどう返答したらいい  
のでしょうか。

子供から親について調べてみてどうだった？ と尋ねられたとき 『 分らなかつた 』 と  
答えて終わると子供はがっかりしてしまいます。しょぼんとしてしまいます。あるいは 『 分か  
らない 』 と返答したことが調べてもらえなかつた 相手にしてもらえなかつた 拒絶されたと  
感じてしまう子供もいます。

そこで一計を案じました。分らなかつたと答えてもいいのですが 『 う～ん どうだったん  
だろうね～ 』 と返答し 『 ところでさあ～ お母さんは巻き毛だったのかな～ ほっそりし  
てたのかな～ 目がクリクリとしてたのかな～ 足が早かつたのかな～ どう思う～ 』 と子

供にとっての親を尋ね返してみました。『 いや きっとね お母さんは 背が高かったんだよ 僕も背が高いし 優しい顔をしているんだよ いや きっとそうだよ 』 いくら調べても分からないものは分かりません。でも子供にとって自分で親を作ることができます。自分だけの親。優しく抱きしめて自分だけを見てくれる親。どんな親でも作れます。そして決して他人に奪われることはありません。

#### 【 コラム 生母さんにも事情がある 】

生母さんにも事情があります。子供がルーツ探しをしたときにはもう結婚して家庭ができている場合もあります。あるいは子供が生まれている場合もあります。そして家族にも子供がいることを隠している場合もあります。あるいは子供を産んだことを隠したままで結婚している場合もあります。長年会いたいと願っていても会うことができない事情もあります。

生母さんには心に傷があります。癒されることのない傷があります。せっかく授かった子供を手放してしまった。自分はダメな母親。子供に会う資格なんてない。こんな母親でごめんなさい。子供がせっかく会いたいと願っても生母の心の傷が癒えるまで時間がかかることもあります。

#### 【 生母さんからの拒絶 】

生母さんにも事情があります。せっかく結婚して幸せな家庭を築いてもう子供のことには触れてほしくない。子供に会いたいとずっと願っていたのに 結婚して家庭ができ子供が生まれているともう会えない状況になっていることがあります。

あるいは待ちに待った子供からの連絡があり喜び勇んでいても いざ面会する段になり夫や子供に知られてしまうと今の生活が破綻してしまうことを考えて泣く泣く断ってしまうこともあります。子供にはあらかじめ断られることもあるよと拒絶について心構えさせておきます。あるいは拒絶された場合についてシュミレーションをしておきます。

しかし分かっている生母さんからの拒絶は子供には堪えます。子供はきっと受け入れてくれるはずというバラ色の夢を抱えています。シュミレーションしてもどこか心の底できっとうまくいくと信じています。拒絶はかなりこたえます。カウンセリングが必要になります。

#### 【 コラム 養親さんの家庭は恵まれている 】

養親さんは比較的恵まれた夫婦が養親さんになります。経済的にも社会的にも人格的にも恵まれた夫婦が養親さんになります。それだけ赤ちゃんを幸せにしてくれる素地のある夫婦に子供を委託するのです。

ところが生母さんは自分で養育できないだけの深刻な背景を抱えていることがあります。貧困であったり 家族関係が崩壊していたり 十分な教育が受けられなかったり 暴力を受けていたり 養育できないにはできないだけの背景があります。養親さんのもとで育った恵まれた家庭環境で育った子供の生活環境とは全く別の世界に生きています。そのため やっと生母さんを探しあてても最初は良くて だんだんお金をせびられるようになっていたり 高圧的だったり 支配的であったり 抑圧的であったりして 会うことがだんだん嫌になることもあります。仕方がないことです。再開したけれども場合によってはもう会いたくなくなることもあります。

#### 【 コラム 生母さんには支援がない 】

⑨生母のもつパーソナリティについて

生母と面会したが 嫌な人だった 否定された 拒絶された

生母と面会したが 何も話してくれなかった 自分のことばかりだった 言い訳ばかりだった